

町長と語るタウンミーティング 議事録(概要)

日 時：令和 8 年 1 月 21 日(水) 19：00～20：10

場 所：稲美町立コミュニティセンター ホール(役場新館 4 階)

テーマ：多文化共生のまちづくり

参加者：5 人(うち、子ども 0 人)

【司会】

それではただいまから、町長と語るタウンミーティングを開催させていただきます。

このタウンミーティングは、稲美町の今後のまちづくりについて、住民の皆さんと町長が直接意見交換を行う場として設けさせていただいている。今回のテーマは「多文化共生のまちづくり」。活発な意見交換ができればと考えている。

【町長】

今日はとても寒い中、タウンミーティングにご参加いただき本当にありがとうございます。このタウンミーティングは、年に 4 回、平日の夜や土日の昼間などに形を変えて実施している。今回は、多文化共生のまちづくりをテーマにお話させていただく。住民の皆さんと外国人との接し方等で日頃感じていること、また今日は外国の方もお越しいただいているので、お話ししながら今後のまちづくりに生かしていきたい。どうぞよろしくお願いします。

まず初めに、多文化共生に関する技能実習生のお話の動画があるので、皆さんと一緒に見ていきたい。

動画上映：「多文化共生」を目指して

【町長】

まず、多文化共生には日本人側から見る考え方と外国人側から見る考え方の 2 通りがあると思う。私は、町長という立場で、多くの住民の皆さんが考える外国人との接し方や考え方について考えている。日本人も外国人も気持ちよく暮らそうというのが「多文化共生」だと思うが、率直なご意見を聞かせて欲しい。

【参加者】

最近、知らない人から挨拶をされると、日本人同士でも警戒心が強くなっている。また、日本人の場合、外国人に対しての警戒心がさらに強いように思う。そのため、外国人も日本人に対して一步下がってしまうことがある。国際交流のイベント等で外国人と話をする機会があり、面識があれば挨拶したりするけど、それ以外だと、日本人自身が対人関係に関する距離感を持っているため、外国人もなかなか溶け込みにくいのではないかと感じる。

【町長】

稲美町の人口 3 万人のうち、外国人は約 700 人で、人口全体の約 3%。日本全体でも約 3%。でも、東京などの都市部ではパーセントが高く、稲美町も今後そうなるかもしれない。

【参加者】

私は、技能実習生の会社でベトナム人に日本語を教えている。彼女たち技能実習生からすると日本に来る目的は仕事であり、ドライな人間関係が多い。もしお休みがあれば、ベトナム人のネットワークでどこかへ行くことはあるが、日本語で会社以外の人と会話することはほぼない。だから、外国人と交流する機会を設けるためには、かなり魅力的な事業がないと彼女たちを連れ出すのは難しいと感じる。国際交流協会が行っているバス旅行や着付け体験など、外に連れ出すためには、前々から休みをとって来てもらう方法でしか難しい。また、技能実習生も稲美町はいいなと思っても、やはり賃金単価が高い都会へ行ってしまるのが現実。

【町長】

外国人同士のコミュニティもできてから、進んで日本文化や日本人と馴染みたいという気持ちは薄いのかもしれない。日本に永住したいと考える外国人であれば、日本で家を買って、家族もつくるとなると、外国人同士の小さいコミュニティだけでは難しいと思うが。

【参加者】

稲美町にもっと多くの外国人に来てもらうには、農業のイベントをやってみてはどうか。農作物の収穫時期等に外国人にアルバイトで来てもらい、収穫体験をしながらお金を払うようなお得な感じであれば、やってみたいと思う外国人がいるのではないかな。ボランティアでも来るとは思うが。

【町長】

今年の夏に多くの自治会の盆踊りに行ってきた。外国人の家族をお見かけし、自治会の方で聞くと、長く住まれている方で村付き合いもずっとされていると言われていた。日本人と外国人の子どもが一緒に遊んでいる姿も見た。

稲美町の方針として、今のところ外国人の方にもっとたくさん来てもらうという方針はないが、今後いろんな部分で人手不足になった場合に、外国人の人材が増えてくるのではないかなと思う。稲美町に暮らされている限りは、町として困りごとがないように、助けてあげる必要があるし、日本人と良い関係が築けたらいいと思う。稲美町には、観光地があるわけではないので、インバウンドのように、外国人を誘致したいということはないが、結果的に

稲美町を選んで来ていただけたらすごく嬉しい。

【参加者】

企業の中には、実習生を預かっている身として、日曜日に従業員を車で送り迎えして、外へ連れ出そうとする企業もあるようだ。

【町長】

外国人がふらっと集まれるサロンのような場所があればいいと思う。そこで日本語の勉強ができたり、やりたいことができたりするのではないか。月1回とか2回でもいいので、継続して定期的を開けたらいいと思う。

人口規模の大きい市町であれば、多文化共生課とか、多文化共生係があるが、稲美町ではなかなかそこまでできてない。だから、国際交流協会の皆さんには本当にお世話になっていると感じている。

【参加者】

月に1回、2回でもそういう集まれる場所があると外国人に周知できれば、困りごとややってみたいことを言うてくる人もいるかもしれない。いろいろな意見が集約できるかもしれない。

【町長】

稲美町の高齢者福祉は、お年寄りがたくさんいるから、いきいき広場やサロンなどの制度が充実している。今後、外国人がどんどん増えてくるのであれば、外国人に対する施策も増やしていかなければならないと思う。

【参加者】

技能実習生の住む場所はどうか。企業が借りているのか。稲美町には宿泊施設や部屋を借りられるところがない。

【参加者】

町として、空き家のリフォームに支援し、研修生のために活用してはどうか。

【町長】

実際、町内にもいくつか寮のようなスタイルで、住まれているところはある。稲美町に住まれている以上は、私たちと同じ住民なので、サービスを提供しなければならない責任がある。決してほったらかしにはできない。

【参加者】

賃金の格差があり、高いところへ人材が流れてしまう傾向があるが、住むところに優遇してあげることで、生活の部分で住みやすい状況を作ることができる。

【町長】

稲美町第1号の簡易宿泊所が母里地区で、もうすぐオープンする。空き家を改修されており、そこでワークショップをしたり、泊まれたりできるようになる。オーナーさんは、外国人の方やホストファミリーにも来てほしいとおっしゃっていた。

【参加者】

外国人は自治会に入っていない方が多い。以前に、自治会長から外国人がごみを適当に捨てて困っているという声を聞いた。自治会に入っていないことで、ごみの捨て方を周りから教えてもらえず、問題を起こしていることに気づかず、地元の人に嫌がられるような場合があるのであれば、何とか解決してあげたいと思う。

【町長】

やはり住民同士でコミュニケーションをとってもらい、知らないなら教えてあげるというのが一番いい方法だと思う。稲美町のごみのカレンダーには、英語やベトナム語バージョン、それ以外の言語もある。また、ごみを捨てる曜日が違うため、自治会ごとのバージョンも作っている。

【町長】

外国人の方は、休日に何かスポーツをしたり、平日の夕方の仕事がない時間に、みんなでスポーツをする習慣はあるか。

【参加者】

みんなで集まってご飯を食べるぐらいで、公園で遊んだりはしている。会社がコーディネーター役になって、外国人を送りだしてもらえたらスポーツをすることもあると思うが、費用や移動手段の面、また、知らない日本人と日本語で話すことはとてもハードルが高いかもしれない。送迎バス等があれば行きやすいかもしれないが、外国人だけで施設を予約してスポーツをするのは、ハードルとしてはかなり高い。

【参加者】

国際交流協会でイベントを企画するが、協会スタッフの人数や広報手段、予算も限られているので、なかなか月1回のイベントでも難しい。

自治会でも準会員として、一緒に草刈りやごみ拾い等のイベントに参加してもらおうよう

な形をとれば良いと思う。その仲介になってくれる人がいればいいのだが。

【町長】

老人福祉は、すごく制度が充実していて、地域に民生委員さんが 1 人いらっしゃって、「どうですか。困ったことないですか」と声掛けができており、困りごとがあれば役所に繋がれる。その外国人バージョンがあればいいと思う。

【参加者】

外国人のお助けページのような、困っている人がいたら、だれかが助けてあげられるようなツールがあればいいと思う。転入の時に、周知することはできるが、既に町内に住まわれている方への周知は難しい。でも、ネットワークの中で、相談窓口が稲美町にあると伝われば、広がっていくと思う。

【町長】

さきほども言ったが、分野は違うが、お年寄りや子どもの居場所もでき始めているので、ニーズに合わせて、サービス等の制度はできてくる。それが必要になってくる時代になっていくと思っている。

【参加者】

稲美町の若い子たちに、もっと広い世界を見てほしいという思いがある。国際交流協会が実施しているホームステイはお盆の時期で、小中学校が夏休みの時期と重なり、子どもたちが外国人と交流できる機会が少ない。もっと若い子たちと外国人が交流できる機会が増えしてほしい。ホームステイを受け入れる側にとってはいい時期なのかもしれないが。

【町長】

学校には英語の授業で ALT の先生がおり、小中学校の児童生徒に多文化共生教育を実施している。また、学校長の判断にはなるが、単発で外国人を受け入れ、交流の機会も設けている。すべての小中学校で等しく実施するにはかなりハードルが上がるが、教育委員会とも連携していく必要はあると思う。

【司会】

それでは本日のタウンミーティングは、これで終了とさせていただきます。事前にアンケート用紙をお配りしているので、ご協力いただける範囲でご記入いただき、ご提出をお願いしたい。